草原日記～携帯メールで綴る～

川村　愿

はじめに

私は現在まだ ドルフィン八王子の４０１５号室に滞在しています。ここは殆ど個室ですが、 たまに二人部屋があります。 居住部分は２～５階で、各階には十四部屋あります。プラス医務室と給湯室です。トイレは各部屋にありますが、バスは一階に（温泉ではないが）広い浴室が一つと普通の個人バスが二つあって、あと 機械浴（専用の車椅子ごと入って周りからお湯が出て来るもの）が２～３個位あります。 最初見学の時見ました。

施設にいて のんびり過ごしていて何も書く事がないな、どうしようと思って、取り敢えず前に居た施設サンシルバー町田で宿題で作った俳句を投稿しましたが、

公文さんが高知の事を書かれたと伺って、急に昔の事が蘇り、ミニ自分史にしようと思いました。パソコンはしばらく使えないけれど、最近は「携帯小説」を書く人もいるらしいから…。と携帯メールで始めたものです。子供達や孫たちに話

すお祖母ちゃんの心境です。
（六月十八日）

これからこの原稿に「草原日記」という題名をつけることにしました。草原の草は野中(実家)の父が俳句をつくる時「草巨」という署名を入れていたからです。原は私の「愿（よし）」の漢字からとりました。

父は明治三十六年四月二十日生まれ、母は明治四十一年四月十五日生まれです。父母の生年月日は多分これで大丈夫だと思いますが、もし間違えていたら、お父さん お母さん ごめんなさい。特に父の生まれた年は一。二年の誤差があるかもしれません。高知だとすぐ分かるのですが、今は東京の八王子なので、後で正確な事を調べます。

父の草巨の巨はどこから取ったのか今となっては正確なことは分かりません。野球の好きな父でしたが、特に野球に関係があるとも断言出来ません。今日は偶々「父の日」。知りたいけれど、出所は不明とします。

草巨の草も父の思いは推測するしかありません。私は私なりに草を解釈しています。父は漱石が好きでしたから(と誰かに聞いたことがあります)もしかしたら、草枕から取ったのでしょうか？そうでなくても「草」はなかなか良い字です

し、
「巨」も想像がふくらんで、良い字だと思います。

因みに私の「愿」の字は父から“素直な”という意味だと聞いたことがありますが、辞書をみると「つつしむ」と訓読出来ます。パソコンでも つつしむ で私の「愿」の漢字がでます。携帯電話では残念ながら出ません。
父が三人の子供に付けた名前は、長女の姉が大正15年12月5日生まれで「廸（みち）」昭和天皇の「廸宮」から戴いたそうです。やはり携帯では出ません。
昭和15年生まれの弟は彰（しょう）で、教育勅語発布の日（十月三十日）なので、最後の「…顕彰するにたらん」から戴いたものだそうです。

姉は一昨年七月三十一日に悪性リンパ腫で亡くなりました。
七歳年上なので、小さい頃 妹の私は足手まといで、遊んで貰いたくてもさっと逃げられたたし、あんまり仲良しとは言えなかったかもしれないですが、いざ亡くなると3日くらいは終日涙が止まりませんでした。やっぱり父や母のそして高知の思い出につながるのです。姉の名前は昭和天皇の廸宮裕仁親王にあやかったものですが、その廸は自由の由にシンニュウではなくて、建設の建の左に使うタテ

ガマエですか？　最近テレビのクイズ番組で、漢字の書き順の問題などをよく見かけますが、漢字は難しく奥深いものですね。

私は高知市の小津にあった高知大学文理学部を卒業しましたが、旧制高知高校の後進で、今はもう残っていません。
現在は朝倉(今でも朝倉でしょうか?)に高知大学のすべての学部があって、文理学部は人文学部となったようです。
なぜ高知大学の話かと云うと、姉の主人が高知大学の助教授(現　準教授)で、姉一家は、三人の幼い娘たちと南瞑寮の官舎に暫く住んでいたからです。義兄は私の指導教官で、土佐高十六回生の水野茂氏でしたが、数年前に亡くなりました。姉が亡くなった年の年賀状は濃い紫色の夜空に北斗七星と北極星があるもので、「ご機嫌よく過ごしてますか?大学の北の空に星がきらめき　本当に土佐は夜空がきれいでしたね　星空と九日の満月を見ませう　あれも　これもすべて夢の様です」と ペン字の添え書きがあります。

(六月十九日)
私はＮＨＫ「Ｅテレ」(このあたりでは2チャンネル)を朝六時から七時頃を中

心によく見ますが、その中に「ピタゴラスィッチ」〝アルゴリズム行進〟と云うのがあります。二人のリーダー(菊地さんと山田さん)がいて、消防隊員や高校バスケット部員、東北楽天などプロ野球選手、京都の舞妓さん、果てはロボット（ＡＳＩＭＯでしたっけ？）などが「♪あっち向いて二人で前ナラエ　こっち向いて二人でマエナラエ　手を横に　まだ危ない　頭を下げれば　ぶつかりません…。」と行進するシーンがあります。私はこれが大好きで、楽しく見ていますが、今朝は普段　硬い表情で演奏をしていられるＮＨＫ交響楽団員の方数名が行進に加わっていて、思わず笑いがこみ上げました。この番組は。立派な社会人も楽しそうに参加していられます。

　私は以前の「くろしお」に書いた事を又書くかもしれませんが、ご容赦を！なるべくくそうならないように気を付けますが…。

　私の実家は高知市の旧北奉公人町(現在の上町)三丁目です。市街電車（チンチン電車)道の一つ北に入ったところです。国際観光旅館　城西館は電車道に面した二丁目にあって。徒歩二～三分です。

　実家の門にそって、赤いレンガの塀があります。今は独身の弟が、一人で住

んでいます。塀の内の庭に戦争中かなり広い防空壕を掘っていましたが、今は壕は埋められました。当時あった大きな松の木は枯れて仕舞いましたが、今「わびすけ」という椿の木があって母の好きな花でした。

城西館のすぐ前に坂本龍馬の生誕の地があって、電話ボックスの上には渋い緑色の胸像があります。城西館の向かって右を少し曲がったところに龍馬ゆかりの饅頭屋の跡地があり、すぐ前に喫茶才谷屋があります。店の中は龍馬の肖像画や、ゆかりの品々でいっぱいです。その他、馬路村の冷えた柚子ジュースも販売しています。実家のお墓は二丁目を北に少し入った小高坂山にあります。山の端(はな)から上に少し登って行きます。矢野・野中両家の墓の左斜め前に父 野中良夫のお墓があります。市商の校友会に建てていただいたもので、父を偲ぶ言葉とともに父の俳句「寒の水掬へばかくも温かき」が刻まれています。母は平成十四年没ですが、この前はまだ仮のお墓でしたが、その後母思いの弟が考えてくれたものと思います。懐かしさのあまりこれまで実家の事ばかりになりました。

これから川村の事を織り交ぜていきます。川村のお墓は筆山にあります。天王墓地です。川村の両親 父 末雄と母 愛子が眠っています。夫 哲夫のお墓はお

陰様で町田市の南町田霊園に作る事が出来ました。分骨して両親の傍に納めようと一度帰高の際連れて帰りましたが、すぐには出来ず、まだ府中の仏壇に安置してあります。遺言で、太平洋に散骨してほしいといわれていますが、手続きが大変のようです。

(六月二十四日)

高知市北奉公人町の実家は戦災で焼け残った、私の生家です。高知市も大空襲に見まわれて、北奉公人町もほとんど焼けてしまったけれど、隣の家まで焼けてきた時　父が小高坂山(こだかさやま)から市内を見ていて、まだ今から行けば助かるかもしれないと降りて行って、当時近くに駐屯していた軍人さん十人余の応援を得て、防火用水の水をリレーでかけて焼け残りました。有り難い事です。

実家は玄関の四畳半　表座敷が十二畳　仏間が六畳　居間が十二畳　南に縁側があって　かなり広い庭。　北に縁側と中庭(ここに伯母が元気な時は七夕飾りをしていました)。横に廊下を通って　お手洗いがありました。私が子供の頃はまだ新築で、祖父が「家がよごれる」と、上がる事も許して貰えなかったけれど、その後終戦後は　焼け出された親戚が何人か入れ代わり立ち替わり住んで、随分お役

に立ちました。 以前は高知城の城下町で、坂本龍馬も二丁目の入口の家で一弦琴を弾いたりしていたとの事です。姉から聞きました。。

（六月二十六日）

私が物心ついたとき、私の家族は祖父 野中留吉、祖母 竹、父 野中良夫 、母 千鶴子、 姉 廸 、 それから矢野亀於、信雄、矢野雅恵伯母 公平 の 大家族でした。

弟は私が六歳の幼稚園の時生まれました。

亀於伯母さんは父の姉、 雅恵伯母さんは父の兄 矢野安太郎さんの奥さん、公平さんは安太郎さんの長男。 信雄さんは亀於伯母さんの 長男です。安太郎伯父さんが早くなくなったので、雅恵さんと公平さんを祖父がひきとりました。亀於伯母さんは夫が家庭を大事にしなかった為 祖父が連れ戻したそうです。

家は表の座敷と裏の二階建てに台所、お風呂、トイレ(これは表座敷にも廊下で通じていました)。座敷と裏の家の間にはコンクリートの土間があって、ここに機織り機があって亀於伯母さんが良く機を織っていました。着古してはいても綺麗な着物の生地を繊維にそって裂いて(ハサミで切らないで)幅二十五センチ位の丈夫な帯が出来るのですが、なかなか味がありました。和服の反物も何枚か織っていました。

（六月二十七日）

今日　浜田龍夫さんに「フィネガンズ・ウェイク読解」という著書を送って頂きましたので、其れに関連した番外編です。

浜田さんには既にフィネガンズ・ウェイク解読のパート1～4を送って頂きましたか、浜田さんご自身で前置きにも書かれているし、御本の後扉にもありますが、サム・スロートの「多くの他の正しいことより、フィネガンズ・ウェイクについて間違ったことを云う方がずっと愉快である」と云う言葉がとても含蓄があると思います。

私は特に詳しくはありませんが、高知大学の文学科(英文学専攻)の時　フィネガンズ・ウェイクの事を学び、柳瀬氏の言葉としても、ジェイムズ・ジョイスは非常に難解で、翻訳不可能とも云える。と聞いて居ましたので、浜田さんが、翻訳に挑戦されて、解読された事に大変驚きました。普通なら翻訳不可能と聞くとそこで、断念すると思いますが、今回、浜田さんが読解本を完成された事も凄い事だと思います。

草原日記番外として、私は卒論に十八世紀の作家ヘンリー・フィールディングを選んで、「トム・ジョーンズ」と云う作品を中心に卒論(英文)を書きましたが、お正月休みに集中出来なくて、思うように書けませんでした。ヘンリー・フィールディングの他の著書ジョセフ・アンドルーズなどを大学の図書館で読んだりして(指導教官に云われて)時間不足になり、自分としても満足出来るものではありませんでした。まあ辛うじて卒論として完成は出来ましたが…。

(六月二十九日)

今、午前一時です。ここは個室なので、夜中にこうしてメールが出来ます。もと居たサンシルバー町田は普通四人部屋なので、消灯の九時以降はたとえ個室(プラス五千円)でもメールも出来なかったので、自宅以外としては 便利です。

ここも時々見回りに来られるけれど、差し支えありません。もともと昼間にメールすれば良いのですが、今日のような場合はここは有り難いです。

今テレビ(NHK 総合)はテニスのウィンブルドン選手権(男子)をやっています。ちなみにＥテレでは「どうしたら 不明土地(粟国島ー沖縄)をとり戻せるか」という問題をやっています。尖閣諸島問題でも、近隣の国とはなかなか仲良く出来ない

ものでゝ難しいですね。本来は日本の領土らしいですが、安倍総理がおかしな発言をしていましたが、“論外”ではないでしょうか！

前置きが長くなりましたが、これからまた草原日記の続きを書こうと思います。ただ 多分夜が明けてからになります。昨夜そのつもりでしたが、やはり無理でした。夕食(五時半から)が終わって帰ったのが、六時過ぎ、もう私は半分眠いので、やっぱり明日にしようと思いました。ベッドに横になると、七時には眠ってしまうので、テレビを漫然と見たり、本を読んだりして時間を過ごす事にしています。それでも八時前にはもう耐えられず、横になります。私は夕方七時を過ぎる頃には眠くなり、朝は四時には目が覚める事が多いです。

サンシルバーの時仲の良かった 昭和四年府立第四高女卒の人にアンチエイジングだと勧められて、八時からのテレビをホールで見て、九時に帰って寝るようにしていたのに、今また つい八時に寝て朝は三時か四時起きに戻っています。自室にテレビをレンタルしてあるので、なるべく八時までは起きてるようにしていますが…。昨夜は八時に寝たら、なんと目が覚めたら、まだ九時でした。それからまた寝て目がさめたら日付が変わって、一時でした。まもなく午前三時で

す。

このままだと眠らないで朝を迎えるかも知れないので、一度電気を消して眠るように努力します。

私の父の兄妹は既に書いた以外に二女の中平喜代恵(夫 文八)、尾崎千代子(夫猛)の五人です。中平の伯母は子供がいなくて、夫婦で一時神戸住んだりしていましたが、晩年は須崎の宇佐に住んでいました。伯父さんは宇佐では投網（とあみ）の商いをしていました。私は養女に望まれたけれど、親元を離れたくなくて、伯母の期待に沿えませんでした。千代子叔母さんは世田谷区の尾山台にずっと住んでいた。先日等々力渓谷の事をテレビでやってたけれど、高二の夏休みに呼んでもらって暫く滞在した時よく行ったので懐かしかったです。従姉は中平敬子(としこ)吉田敦子(私より一歳上、尾崎誠一(二歳下)の三人でした。最近は叔母夫婦は故人で、従姉たちとも何年も会っていません。戦争中は従姉弟が夏休みなどに集まって音楽会を開いていたものですが。

（六月三十日）

今、午前一時六分です。NHK 総合ではテニスのウィンブルドン選手権男子３回戦 日本の錦織圭選手とＳＥＰＰＩ選手の対戦です。昨夜は七時半ぐらいから 女性の職員さんで親切な方が七時半~八時半位カラオケをしてくださったので、頑張って起きていて、帰って寝たら、目がさめると一時半位です。また間もなく休みますが、草原日記を少し打ちます。私の幼少時代父方の祖父母や伯母たちとは一緒に住んでいましたので記憶がよりはっきりしていますが、幼少のころ柴犬をずっと飼っていました。名前は代々「きち」といいました。一度子犬が数匹生まれたとき、その中で前足が白い犬を私はなぜか気に入って「オシロイ」と呼んで特に可愛がっていました。オシロイだけでなく きち は家族によく懐いていて、父が学校(市商の先生をずっとしていました)から帰りに電車を降りるとすぐに察知して、鎖をガチャリと鳴らして立ち上がると家族が言ってました。実家の北奉公人町三丁目は電車道から一つ北の通りで、三丁目で電車を降りた所が実家です。

電車を降りた所からの音は、普通実家に居る人には聞こえませんが、犬の聴覚で可愛がっている父の足音を感じ取ることが出来たのだと思います。

（七月四日）

夕方食堂から帰ってきて、草原日記の続きをメールしようとして、ちょっとと

思って横になったら眠ってしまっていました。
　歯磨きをして、テレビ(NHK Eテレをつけたら、百分名著でプラトンの「饗宴」を見ました。そのあと「会社の星」〝入社太り脱出〟のトレーニングの話。若者だけでなく、我々にも多少参考になります。その後２３５５(ニーサンゴーゴー)が始まりました。私は朝の０６５５(ゼロロクゴーゴー)とともに、オープニングのアニメを見るのが好きです。
　それから「お早うソング」と「お休みソング」などが好きです。間もなく午前一時になりますので、また一度寝て朝五時前後にメールします。

　その前に大阪の友達に少し前に送って戴いた本のことを少し。「昭和初期流行歌歌詞集「昨日 今日 明日に歌う」辻厚生・西山卓 編(飛鳥書房)です。尋ねてみましたが、もう飛鳥書房そのものもありません。草原日記の続きはここから始めます
　昭和初期流行歌歌詞集の編者 辻厚生氏は高知市出身、大正十五年生、高知商業(市商)から大阪私立大学商学部教授(１９８４年5月３１日初版発行当時)、
　同編者西山卓氏は高知市出身、昭和三年生、土佐中学から大阪工業大学教授(１９８４年当時)。大正十五年と昭和三年は、もしかしたら学年は一年違い位で

す。昭和元年は大正十五年の十二月末の六日しかなくて、すぐ昭和二年でしたから。実は亡き姉みちが大正十五年十二月五日生まれだったから、このあたりの事は良く知っています。

辻厚生氏は姉と同級生になるようです。西山卓氏は土佐中の大先輩です。お二人にはお目にかかる機会がなくて、大変残念です。　実は西山先輩には公文の市ヶ谷事務局で一度、短時間ながらお会いしています。「くろしお」第４集では先輩、後輩に原稿をお願いして　西山先輩にも書いて頂いたので、その関係で、その頃短時間ながら、お目にかかっていました。ただ。「昨日　今日　明日に歌う」が出版された時にお目にかかれなかったことが残念です。　銀座の「薔薇の木」には時々見えたそうです。

辻厚生氏は私の父の教え子ではないかと思います。父は音楽も好きで、市商で吹奏楽部を作ったりしたそうです。「くろしお」第３集にも書きましたが、市商の応援歌「牙城の守り」も父がつくったそうです。私が幼い頃にはいつも家庭音楽会をして、家族で一緒にたくさんの歌を歌いました。

以上　眠れなかったので、メールしました。いかに安部さんでも早すぎるので、五時に送信します。でもうっかりして消してしまいそうなので、少し待ったら送信させて頂きます。

母は九人兄妹の末っ子、六女でした。通称フルジンチと呼んでいましたが、今の高知市曙町で、造り酒屋をしていた 東村が実家です。母の次兄は弥勒正辰伯父さんで、土佐中高の時保証人をお願いしました。従兄の敬太郎さん（市商）の長男の展丈さんは土佐高の後輩です。母のすぐ上の五女、井沢の伯母さんの次男が二十八回生の修さんです。

母の実家の東村でも法事で従兄妹が集まりました。母の晩年にも 何か法事などがあると、母のお使いで、弟の彰が行かされる、と言ってました。懐かしい思い出です。 庭には梯子をかけて上らないといけない巨大な酒樽がごろごろしていました。ここのお蔵も怖かったけれど、野中のお蔵も 言うことを聞かないで泣くと入れられるので、とても怖かったです。祖父がいつも助けに来てくれました。

夫 川村哲夫の 父末雄は五人兄弟の五男で佐川に住んでいました。先祖は掛川から来たそうです。川村の母の実家は香美郡香我美町岸本で、川邑です。夫の兄妹さんと二人姉妹でした。夫 川村哲夫の兄弟は三人で、岡崎在住の川村英夫さん(土佐高二十八回生)と高知市在住の川村武生さんです。夫の命日は六月三十日

です。猛暑のため、涼しくなったらお墓参りに行きます。

（七月十二日）

私の父野中良夫は、本来は旧制三高から京大を目指す筈でした。三高の試験の前々夜に 事もあろうに近くの火事を見に行って、風邪を引き、高熱を出して、受験にいかれず、次の年にまた三高と思っていたが、当時神戸高商が成長株になって方針を変えた。試験はかなり難しかったが、余裕を持って合格、数学の試験は百点で、二人の中の一人だったと祖母から聞きました。

当時、就職は京阪神の会社に引っ張りだこだったそうですが、大家族の面倒をみないといけなかったので、高知に帰りました。そして市商の先生になりました。 二人の甥、矢野安太郎伯父さんの一子 公平さんは、大阪外語のロシア語、長姉の亀於伯母さんの一子信雄さんは、ドイツ語に進学しました。信雄さんを実の息子のように可愛がり頼りにしていましたが、結婚してまだ子供がいないとき、腸炎で亡くなりました。父の涙を見たのは二回だけで、そのうちの一回でした。

後の一回は終戦の玉音放送を庭で拝聴した時でした。

公平さんは、はじめ早稲田に行きたくて不満だったが、終戦の後満州から引き上げる時、ロシア語が出来たお蔭で、周りの人達と一緒に命拾いをしたそうです。

引き上げのとき会ったかなり年上の女性と結婚して、子供も男女二人います。

私の姉は第一高女四年の時挺身隊に行く事になりましたが、個人的に四国銀行で、挺身隊の仕事をしました。当時予科練で出征する軍人さんの慰問団の仕事もしました。

姉は旧制度の第一高女から 東京女子大の国文学科に進学する事を希望しましたが、父は薬学部なら賛成すると言ったそうです。姉は家にあった世界文学全集を尋常小学校五年頃には全部読んでいて、国語の先生にも「抑える場所はきちんと抑えている」と誉められたと言っていました。

高知市立第四尋常小学校の国則先生に可愛がって頂いたそうです。後に小説家になった宮尾登美子さんとは親しく文学の話を電話などで話したものだと姉から聞きました。宮尾さんはお家の事情で、高坂高女に進学されたそうです。

姉が女学生の頃家では父を囲んで、歌を歌う会を開きました。今ならカラオケかも知れませんが、姉の弾くオルガンにあわせて大正、昭和の歌などを沢山歌いました。この頃歌った童謡、唱歌、軍歌などのおかげで、大抵の歌は懐かしい記憶と共に蘇ってきます。時々は従兄の信雄さんや公平さんがマンドリンを持って大阪から加わったり、従姉の敬子(としこ)さん、敦子さんが東京から加わったりしました。

原稿少し補足します。姉が小学六年で読んだ世界文学全集は姉の夫の 水野茂さん(土佐中十六回生)が、芥川龍之介全集と交換してしまいました。無論父や家族の許可を得た上の事です。私は仕方なく?「杜子春」「羅生門」「鼻」や書簡集など興味の持てそうな所を選んで、読みました。後で思えば大変良かったのですが。

高知大学(小津)の南瞑寮の官舎に家族で住んで、始めは長女の珠里(後では左里、恵子(さとこ))を連れて北奉公人町三丁目の実家までお風呂に入りに来ましたが、窓の外は隣家のお台所で、本当に見たりはしないですが、「窓を開ければ、〇〇が見える、メリケン粉をこねている(メリケン波止場の灯が見える)」〈別れのブルース(藤浦洸、服部良一、淡谷のり子)をもじって歌って、姉に嗜められていました。

高知大学では指導教官でしたが、授業中に、女房の妹で云々と言うので当惑しました。須崎の安和出身なので、高知市の空襲の後一時疎開させて貰いました。その時は小六だったが、六年生との複式学級を経験しました。

高知市の実家は隣の家まで焼けましたが、父が当時近くに駐屯していた軍人さん達に手伝って頂いて、防火用水の水をかけて、焼け残りました。

（七月十三日）

ミニ自分史にしようと携帯で送信させて頂いて、随分長くなりました。思い出すままに、子ども達や孫たちに語る形のつもりですが…。今、午前三時半、昨夜食堂から帰って、相変わらずテレビを見たり、眠ったりしながら間もなく夜明けです。そろそろ本当に纏めないといけないいと思いますので、話し足りない所はまた次回(草原日記自己版?としてかな?)に回します。以前「くろしお」に書いたことはなるべく重複しないようにしたつもりですが…。

孫は、長女高木真希子（在オーストラリア）には居なくて、次女片岡邦子（在富山県高岡市）の所に初美ちゃん、小学校四年生。三女水口宏子（在横浜市）に嵩智（たかさと）くん六歳と奨梧（ショーゴ）くん一歳八ヶ月。長男龍太郎の所に紗那（さな）ちゃん一歳十ヶ月がいます。

私は祖母に童謡などを沢山歌ってもらいました。「桃太郎」や「さるかに合戦」等の他、印象に残っているのは湊川の決戦に赴く楠正成（くすのきまさしげ）が櫻井で、長男正行（まさつら）に生き延びて再起を期せと諭す情景を描いた「青葉茂れる櫻井」です。≪六番まである歌詞全体が物語になっており、本当は全部

載せたいところですが、一番を載せます》
”青葉茂れる櫻井の　里のわたりの夕まぐれ　木（こ）の下蔭に駒とめて
世の行く末をつくづくと　忍ぶ鎧の袖の上に　散るは涙かはた露か”。

その他私は物心つく頃からいつも「歌」がまわりにありました。みなさんもきっとそうだと思います。公文式教育法の創始者公文公先生も「生まれたらすぐに歌を聴かせましょう」と言われました。母とはある中秋の名月の夜、十数年くらい前でしょうか　桂浜の岩に凭れて、「荒城の月」を唄いました。

宇佐の伯母は実家に来ると　幼かった私に添い寝をしながら「おうちを忘れた子ヒバリは青い畑の麦の中　母さん尋ねて鳴いたけど　風にお麦がなるばかり」と唄いました。やはり宇佐の伯父さんは「オレは河原の枯れススキ　同じオマエも彼枯れススキ　どうせ二人は枯れススキ　花の咲かない枯れススキ」と唄ってみんな笑っていました。（本当は「どうせ　二人はこの世では　花の咲かない枯れススキ」です。

母はよく編み物をして、何でも手編みで作って着せてもらいました。
父は校長現職のとき病気療養で休職するまでは、ずっと市商の先生でした。

休職して三年後に亡くなったのは満四十六歳でした。昨年七月に亡くなった姉は父のことを話すといつも泣いていました。八歳上で、私たち姉弟の中で一番父から色々教わったようです。宿直の時はお弁当を届けに行ったり。父はまだ学校が忙しくない時は家で趣味の俳句会をしたり、謡曲の会をしたり(おおかわ担当)していました。私はよくそばでひとりじっと座って見ていました。

　母は九人兄妹の末っ子(六女)で家は造り酒屋でした。「加茂川」というお酒を作っていました。川村哲夫さんと結婚して長崎に行く時は八幡の従兄の所に数日泊めて貰いました。母の長姉よね伯母さんの三男、山本文三郎さん宅です。みんなから「文(ぶん)ちゃん、文ちゃん」と親しまれていました。伯母さんは御免在住でした。邦子が大分で生まれた時は母と二人で訪ねて来てくださいました。別府で温泉に寄って帰られたそうです。文三郎さんの次男の山本邦義さんは、高知新聞顧問から高知放送重役。独身で“孤高の”弟 野中彰(しょう)(三十四回生)の様子を見に行っていただいたり、何かと有り難い存在です。御免の伯母さんの次男(文三郎さんの兄さん)は市商から御免まで歩いて通っていて~意志の強い秀才だったそうです~が、在学中破傷風で亡くなったそうです。

　夫の命日は六月三十日でしたが、猛暑がすぎたら お墓参りに行きます。

忘れ得ぬ人々の為にも合掌します。

（２０１３年７月１３日午前６時過ぎ）

ちょっと書き忘れたかも知れないので補足します。
父は明治三十六年四月二十六日高知県高岡郡高岡生まれ。野中留吉、竹の次男。
母　東村千鶴子明治四十一年四月十五日高知市生まれ。高知県立高知高女（後の第一高女）卒。父母は高知市堀詰で催されたお伽話会で出会って、母の女学校卒業を待って結婚。東村の祖父母の六女。次兄の弥勒正辰伯父が私の保証人。母の父母と長兄の名前は確認しないとあやふやな記憶。長兄は早大卒祖父、祖母は物に拘らない　優しい人だったから、記憶の曖昧な所はきっと許して貰えると思う。
ただ、いつかきっと正確にしておかないと、と思います。

　三女の宏子は現在夫と長男六歳と次男一歳八ヶ月に囲まれて、忙しく過ごしていますが、やはり「パパとママと姉妹三人と弟の六人家族で過ごした頃も懐かしく大切な時期だと言います。初めは前のメキシコオリンピック(１９６８年)の時は長女真希子と次女邦子が小５と幼稚園でしたが、次に長男が生まれた１９７２年は二歳半で、バンコクでタイ人のお守りさんソムチットさんに可愛がられて、

楽しかったようです。カイロ日本人学校の時のクラスメートとは今も交流があるようです。

長男龍太郎が六ヶ月の時帰国しましたが、私どもが住んでいた頃はエジプトもシリアも静かな平和な都市でした。レバノン情勢が不穏だったので、家族は平和を求めて、移り住んだのがエジプト、シリアでした。

長女真希子は外国暮らしが良いとシドニーに半永住で、会社も正社員で頑張っています。次女邦子は富山県高岡市で、姑さんと初美と夫婦で暮らしています。龍太郎のところの紗那はコミカルな面白い姫で、誰に似たのでしょう?